

2010年9月10日

コンビ株式会社

社長:松浦 弘昌 資本金:29億9,192万円

(東証第一部: 7935)

〒111-0041 東京都台東区元浅草2-6-7

TEL: 03-5828-7666 FAX: 03-5828-7665

コンビ株式会社

2010年9月3日~4日

第16回 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 研究成果発表について

コンビ株式会社「プライマリー・オーラル研究会」では生まれた直後から3才頃までの口まわりの発育(口腔発育)を統合的に考えることが、その後の子どもの成長のために重要だという考え方にに基づき、授乳用品を含めたお口まわりの研究を行っております。

東京歯科大学との共同研究の成果につきまして、9月3日より新潟県新潟市で開催された第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会において下記の通り研究発表いたしましたので、ご報告申し上げます。

記

【学会開催概要】

第16回 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

会期:2010年9月3日(金)~4日(土)

会場:朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号

【研究発表概要】

1. 乳幼児のストローによる水分摂取機能発達に関する研究
(東京歯科大学との共同研究)
大久保真衣、石田瞭、川田敬弘、服部美鈴、細谷美穂、松原範宜、杉山哲也
2. 乳幼児の水分摂取機能発達に関する研究_第2報
-すずり飲みの獲得過程におけるストロー飲みの影響について-
(東京歯科大学との共同研究)
服部美鈴、大久保真衣、細谷美穂、杉山哲也、松原範宜、石田瞭

2010年9月10日

コンビ株式会社

社長:松浦 弘昌 資本金:29億9,192万円

(東証第一部: 7935)

〒111-0041 東京都台東区元浅草2-6-7

TEL: 03-5828-7666 FAX: 03-5828-7665

【研究発表内容の要約】

1. 乳幼児のストローによる水分摂取機能発達に関する研究

乳幼児の水分摂取機能の発達を可能な限り妨げない摂取方法を提案するために、ストローの使用に注目した。規定のストロー練習用吸い口付容器（製品名：テテオ マグスパウト）を使用する群と、種類の規定をしない群との経時的観察より、両者の水分摂取機能の習得時期について比較検討した。結果、規定の練習用吸い口容器を使用する群の方がすすり飲みやストロー飲みを早く習得することが出来た。これは練習用容器の吸い口部の直径が小さく口内に入る長さが短いので、吸啜反応（おっぱいと同じ飲み方）を励起せず、すすり飲みやストロー飲みの習得を阻害しなかったためと考えられた。

2. 乳幼児の水分摂取機能発達に関する研究 第2報

—すすり飲みの獲得過程におけるストロー飲みの影響について—

これまで、離乳期の乳幼児の水分摂取機能の獲得について観察し、児の成長に応じた適切な食具の選択の重要性を報告してきた。一方、この報告の中には、一度獲得した機能の後戻り（すすり飲みが苦手になるなど）が確認されていた。今回の発表では、機能の後戻りの原因をストローとの因果関係に着目し解析した。結果、「機能の後戻りが確認された群」は、「機能の後戻りが確認されなかった群」に比較してすすり飲み機能獲得に要した期間が2.1ヶ月短く、ストロー飲み獲得期間に要した期間は2.3ヶ月長かった。この結果より機能の後戻りを引き起こした原因は、すすり飲み機能の獲得が不十分であるうちにストローを開始してしまったためと考えられた。本研究より、獲得した機能の習熟がなされない早期のストロー飲みは、児の月齢に関わらず、すすり飲み機能の混乱と遅延を引き起こす可能性があることが導かれた。

以上

《コンビ株式会社》

リリースに関するお問い合わせ： 経営企画部 広報担当 須田

TEL: 03-5828-7607 / FAX: 03-5828-7662